

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2010年11月NO.21

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“食べる”

10

－ 焼きたてのロティー －

紅茶農園で暮らす家庭の主食です。

小麦粉に水と塩を加えて焼きます。それに“チリサンボル”と呼ばれる
チリ(とうがらし)にライムと水を加えたペーストをつけて食べます。

お母さんが茶摘みの仕事へ行く前に焼きます。

写真:スリランカ ティー・プランテーション・エリア

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

スリランカ特集

依存からの脱却

「紅茶農園の子どもたちに笑顔を」



紅茶で有名なスリランカ。昔の国名、セイロンと言えればお分かりの方も多いかと思います。熱帯に位置するスリランカですが、海拔2,000メートルを超えるヌワラエリヤではお茶の木が紅茶農園（プランテーション）で栽培され、農園の中にある工場で紅茶が製造されています。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、スポンサーの皆様からのご支援により、このヌワラエリヤで2008年からチャイルド・ファンド・スリランカ（以下CFスリランカ）を通してチャイルドたちを支援しています（プロジェクト名：ティー・プランテーション・エリア）。今号では、紅茶農園で暮らす、あるチャイルドの生活を紹介します。



↑茶畑が広がる地域。朝、雨の中茶摘みが始まっている。白く点在するのは袋を背負って茶摘みをする女性たち。



↑茶摘みをするディルシャンの母親。雨滴で濡れないよう腰にビニールシートを巻いている。摘まれた茶葉は集められて計量され工場へ運ばれる。



紅茶農園の生活 ～ 囚われの共同体～

5年生のチャイルド、ディルシャンは11歳です。ディルシャンは、両親、4歳上の姉と2歳上の兄と一緒に紅茶農園のラインハウス（日本の長屋のような家）で暮らしています。姉は、学籍はあるものの、家事を手伝うためほとんど学校へは行かなくなっています。この地域では、「女の子は学校へ行くより家事をすることの方が大切」という考えが根強く残っており、16歳になると茶摘みの仕事に従事する女の子が多くいます。ディルシャンの家には電気はあるものの、窓がなく、炊事は薪です。部屋は2間ありますが、家具らしいものはほとんどなく、子どもたちが勉強する机もありません。

父親は、農園でお茶の木の剪定や農作業、雑役をするため雇われていますが、仕事は不定期です。仕事にありつけた日は375ルピー（約320円）の日当がもらえます。母親は、毎日8時間、紅茶農園で茶摘みの仕事をしています。1日のノルマは18キロの新芽を摘むこと。日当は父親と同じ375ルピーです。「雨季は茶葉が濡れていて、気温も低いので摘む手がかじかみ、蛭（ヒル）もできます。朝から晩まで中腰でお茶を摘むのは大変です。」と母親は言います。摘んでも2週間経つと新芽が出てくるので、1年中休みなく働きます。

一生懸命働いて得る両親の収入は、1ヶ月14,000ルピー（約11,200円）ほど。これから、保険料や年金の掛け金、さらに配給されているロティ（表紙掲載）用の小麦粉や家族で飲む紅茶の代金などが天引きされると、手元には10,000ルピー（約8,000円）*1しか残りません。また、一日でも仕事を休むと、その月の日当は275ルピー（約220円）に下げられてしまいます。これでは、「辛うじて生きていく」のがやっとです。

ディルシャンの家族が特別貧しい訳ではありません。紅茶農園で働く人びとの生活はいずれも似たり寄ったりです。このプランテーションと呼ばれる紅茶農園はスリランカが英国の植民地だったときに作られ、ここで働く人々は、100年以上前に南インドから連れてこられてきました。紅茶農園は町から離れており、町へ行く交通手段もありません。暮らしていくために必要なほとんどのものは農園主から与えられています。こうした依存的な生活を何世代にもわたってしてきた人々は、自分の可能性を見出せず、囚われの共同体に慣れきってしまいました。未来に希望のない生活の中で、人々は飲酒や賭け事にお金を使ってしまうこともあり、地域の問題となっています。

ディルシャンの家族が特別貧しい訳ではありません。紅茶農園で働く人びとの生活はいずれも似たり寄ったりです。このプランテーションと呼ばれる紅茶農園はスリランカが英国の植民地だったときに作られ、ここで働く人々は、100年以上前に南インドから連れてこられてきました。紅茶農園は町から離れており、町へ行く交通手段もありません。暮らしていくために必要なほとんどのものは農園主から与えられています。こうした依存的な生活を何世代にもわたってしてきた人々は、自分の可能性を見出せず、囚われの共同体に慣れきってしまいました。未来に希望のない生活の中で、人々は飲酒や賭け事にお金を使ってしまうこともあり、地域の問題となっています。

*1【ヌワラエリヤの物価（1キロ当たり）】お米：60円／じゃがいも：70円／にんにく：280円／鶏肉：400円

- 元気に学校へ通うディルシャン
- ↓24世帯が暮らすラインハウス（長屋）。向こうは茶畑



子どもたちに笑顔を



スポンサーシップ・プログラムの挑戦

こうした現状を変えていくため、「スポンサーシップ・プログラム」による支援活動が紅茶農園で始められました。ディルシャンもチャイルドとして登録されて、日本のスポンサーから支援を受けられることになりました。ディルシャンに将来の夢を聞いてみました。「大きくなったら、お父さんみたいに紅茶農園で働くことになるのかなあ。でも、将来は自分で仕事を決めることができるように頑張りたい。本当はお医者さんになりたいんだ。病気の人を助けたいから。だから英語も算数もしっかり勉強しないとね。」と、持ち前の明るい声で答えてくれました。

CFスリランカは、子どもたちの将来を見据えて、乳児期から青年期までを対象にしたプログラム*2を実施しています。11歳のディルシャンには、学校で勉強を続けることができるように、他のチャイルドたちと同じように、制服、カバン、傘などの支援をしました。そして、補習クラスの参加費用も支給しました。また、子どもたちが勉強に親しみやすくするために、学校に対して、教具や衛生設備の整備、教員の能力向上などの支援を行なっています。さらに、PTAを強化し、子どもたちの親を対象にして、学校へ通わせることへの意識を高めるセミナーを実施しています。



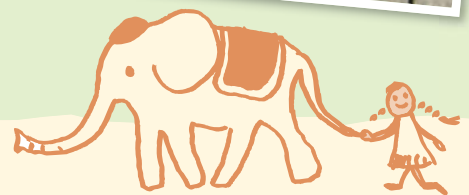
↑ 学校で英語の添削をうけるディルシャン

*2 CFスリランカが実施している子どもの成長に合わせた目標とプログラム

	地域の状況	目標	プログラム
ステージ 1 〈0~5歳〉	栄養不良の子 約7割	健康 と 幼児教育	就学前教育施設の開設・教員の技術向上訓練・家庭における幼児発達理解セミナーなど
ステージ 2 〈6~14歳〉	自信のない子 約8割 (インタビューによる)	学校教育 と 自己啓発	学校施設の整備・教材の支給・教員の技術向上訓練・子どもの創造力を高めるセミナー・放課後の補習クラスなど
ステージ 3 〈15~24歳〉	青年の就業率 約3割	職業ガイダンス と 技術訓練	リーダーシップ訓練・就職のためのガイダンス・技術訓練



↓ 皆様のご支援できれいになった学校の机と椅子



囚われの暮らしからの解放

CFスリランカは、学校教育支援に加えて、健康、幼児教育、職業ガイダンスと技術訓練などの支援活動を実施しています。スポンサーの皆様からの支援を通して、子どもたちが依存的な生活から抜け出し、将来の夢を追い求めていけるように、挑戦を続けています。ディルシャンがお医者さんになれるかどうかは分かりません。しかし、夢を追い求めるための機会が、ディルシャンをはじめ、子どもたちに開かれたことは確かです。

ご紹介したディルシャンは、北海道の学生グループの方々が支援して下さることになりました。ディルシャンが毎日経験する厳しい生活を知った私にとって、ご支援くださるスポンサーが見つかったことは嬉しいニュースです。これからも、ディルシャンはいくつかの困難を経験するかも知れませんが、共に歩んでくださるスポンサーの方からのご支援は、ディルシャンに夢を与えると同時に、いつしかディルシャンと家族が「囚われの暮らし」から解放されることに繋がると確信しました。さらにひとりでも多くの紅茶農園の子どもたちが支援されることを願いつつ、ヌワラエリヤを後にしました。

(支援者サービスグループ 伊藤 久平)



↑ ディルシャンの家族と(左端:伊藤)

日本で一番多く飲まれている紅茶 ～セイロンティー～

私たちが飲んでいる紅茶のおよそ2杯に1杯はスリランカ産であることを皆さんご存知ですか?日本が2009年に輸入した紅茶の総量は1万7399トン。そのうちなんと57%がスリランカ産です。(次いでインドが18%、インドネシアとケニアがともに9%:財務省関税局より)イギリスの有名紅茶ブランドの多くは実はスリランカ産なんですね。セイロン(スリランカの旧国名)紅茶は全体的に色、味、香りのバランスがとれた端正な紅茶と言われ、ストレート、ミルク、レモンと何にでも合います。でもその紅茶の生産を支えているのはここでご紹介した紅茶農園で働く人たちです。皆さんも、今度紅茶を味わう時には少し生産者へ想いを馳せてみるのはいかがでしょうか?もしかしたらディルシャンのお母さんが摘んだお茶かもしれません。



支援プロジェクト 情報 20

ネパール保健行政システムのキャパシティ・ビルディングによる
「ネパールの女性と子どもの栄養改善計画」のフォローアップ・プロジェクト



ネパール

- 協力期間: 2010年1月1日～2011年2月16日
- 支援対象: パルパット郡の栄養不良の5歳未満児およびその母親
- 協力団体: パルパット郡保健事務所、同郡開発委員会、同郡病院開発委員会

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

- 【ネパール】
- ・子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト
 - ▶保健行政システムのキャパシティ・ビルディングによるネパールの女性と子どもの栄養改善計画フォローアップ・プロジェクト
 - ・故細野雅央様からのご寄付による教育支援プロジェクト
 - ・オカルドゥンガ地域病院プロジェクト
- 【フィリピン】
- ・子どもが読書に親しむプロジェクト
 - ・バラワン少数民族生活改善プロジェクト

～郡保健事務所による栄養リハビリテーションセンターの自主運営に向けて～

郡病院内に4月に開設された栄養リハビリテーションセンターをパルパット郡保健事務所が自力で運営できる体制作りを目指して、郡の関連行政府機関とチャイルド・ファンド・ジャパンのネパール事務所との話し合いを続けました。

その結果、郡病院開発委員会がセンターの運営資金を継続的に確保していくために、郡内で活動する他のNGOなどに呼びかけ、5月より米、豆類、油、牛乳などの物品寄付が寄せられました。郡開発委員会と郡保健事務所の予算から拠出された10万ルピー(約8万8千円)を原資とした「栄養リハビリテーション基金」の運用規則も10月に文書化され、栄養不良児と母親が郡病院へ搬送する際の経費を補助することが明記されました。この運用規則の正式な提出を受けて、

チャイルド・ファンド・ジャパンは基金を支援するために11月に15万ルピー(約13万2千円)を提供する予定です。

9月には、センターの運営管理に関する知識と技術を習得するために、チャイルド・ファンド・ジャパンの別の支援プロジェクトであるオカルドゥンガ地域病院の栄養リハビリテーションセンターへの視察研修も実施され、郡保健事務所長を含む4名が参加しました。



2回目のリハビリテーションを受けている中度栄養不良の3歳の女の子(手前)とお母さん。滞在中にお母さんは栄養食の作り方もリハビリテーションセンターで学んだ。

フィリピンからクムスタ

vol.1



クムスタ:フィリピン語で「こんにちは」

10月に入りました。
もうクリスマスです!

フィリピンでは、10月になると街にクリスマス・ソングが流れ始めます。11月ともなると、教会は言うまでもなく、家々、お店、オフィスビルまでもがパロルと呼ばれる星の飾りなどが飾られ、クリスマスムードが一気に高まります。カトリック教会では、12月16日から9日間、早朝4時からミサが行われます。このミサでは神様の特別なご加護を9日間連続してマリア様にお祈りします。そして、25日のクリスマスにあわせて多くの人びとが故郷に帰り、イエス・キリストの降誕をお祝いして、家族と楽しい時を過ごします。クリスマスに家族でする食事の準備、パーティー、そして家族や親しい人の間で行われるプレゼント交換が、フィリピン経済を底上げする効果もあると言われています。ただ一方では、プレゼントや食事の費用を捻出するため窃盗などの犯罪も増加する傾向にあるということです。良かれ悪しかれ、宗教は生活と切っても切り離せないものになっています。



いたるところに飾られるパロル



ベレン(キリスト生誕の場面を再現した人形の飾り)も町中に飾られます

フィリピンの宗教 ひと口メモ

国民の83%がカトリック、その他のキリスト教が10%、イスラム教徒5%(外務省ホームページから)

今号はスリランカ特集です。「フィリピンの記事も読みたい!」という声が聞こえてきそうですので、「フィリピンからクムスタ」を「スリランカからアーユーボワン」の代わりにお届けします。さて、今号では、宗教についてご紹介します。ある調査結果によると、日本人の49%は特定の宗教を信仰していないそうです*。一方、フィリピン、ネパール、そしてスリランカでは宗教は人びとの暮らしの一部になっています。そんな一端をご紹介します。

*NHK放送文化研究所が2009年に行った社会や政治に関する世論調査

ネパールからナマステ!

vol.3



ナマステ:ネパール語で「こんにちは」

人の数より神様の方が多い?

「カトマンズでは住んでいる人の数より神様の数の方が多い」とよく聞きます。首都のカトマンズには、本当にたくさんのお寺や祠(ほこら)があります。たくさんあるにもかかわらず、どの場所でも多くの人々が祈りや供え物を奉げていることに驚かされます。出勤途中の人々の中には、乗っているバスが祠を通り過ぎるとき、車中からお祈りを捧げる人もいます。カトマンズは、もともとネワール族というチベット・ビルマ語系住民の居住地で、ヒンドゥー教や仏教、そして土着の信仰が混ざりあっています。そのため、街中の祠にもたくさんの神々が祭られているのでしょう。朝の静寂の中で祈りの声や鐘の音を聞くと、ネパールの人びとの暮らしには宗教が溶け込んでいることを実感します。



カトマンズ近郊の古都バタンの王宮広場
ヒンドゥー教、仏教のお寺が林立している



朝、祠(ほこら)に供え物をして、祈りを捧げる少女
(オカルドゥンガ郡)

ネパールの宗教 ひと口メモ

ヒンドゥー教徒81%、仏教徒11%、
イスラム教徒4% 他(外務省ホームページから)

涙の報告会

感動のうちに5周年記念報告会が終了しました



「私の未来を作ってくれたのはスポンサーの内田さんです」と話すうちに、感極まり涙する元チャイルドのオデッサさん

東京での報告会の会場となった原宿チャペルホールのステージで、元のチャイルド、オデッサさんは、「今、ここに自分がいて、皆さんにこのようにお話ができるのは、スポンサーの内田さんが自分の未来をつくってくれたからです」と言って、涙に言葉を詰まらせました。現在、フィリピンで公立ハイスクールの教員をしているオデッサさんは、小さい頃、両親が朝から晩まで一生懸命働いても家が貧しく、朝ごはんを食べられずに学校へ行ったこと、教材費が払えずに悲しい思いをしたことなどを話してくれました。「教育こそが貧困から脱け出す唯一の道だと信じて、一生懸命勉強した」というオデッサさんの話に、参加して下さった方々も大きく肯いていました。

5周年記念報告会は、東京はじめ名古屋、大阪、広島、熊本、福岡、札幌で開催され、多くの方々が感動して下さいました。また、オデッサさんが登場する5周年記念映画『スマイルズ! あなたとつくる 子どもの笑顔・希望・未来』を観て、「スポンサーシップ・プログラムが良く理解できた」、「映画に感動した」というたくさんの方々の感想が寄せられました。



大阪の会場。質問が沢山でした。



東京の会場。100名を超える参加がありました。

オデッサさんはじめ数々のストーリーが収められている『スマイルズ! あなたとつくる 子どもの笑顔・希望・未来』を、ひとりでも多くの皆様に観ていただき、感動を味わっていただきたいと思います。感動の輪が広がるように、『スマイルズ! あなたとつくる 子どもの笑顔・希望・未来』をぜひご覧ください。

映画をご覧いただくには

「スポンサー紹介キット」

映画の感動をお知り合いの方に分かち合っていただくため、紹介キットを用意しました。キットには、映画のDVD、パンフレット、チャイルドからの手紙の見本、機関紙、年次報告書、申込用紙とプレゼントが入っています。このキットがあれば、どなたでもスポンサーシップ・プログラムをお知り合いにご紹介いただけます。

出前上映会

上映会を企画してください!事務局のスタッフが全国津々浦々まで上映機材持参で、お伺いして映画の上映と団体の説明をします。

映画(DVD)の貸出し

この映画をご覧になりたい方、ご家族、ご友人とご覧になりたい方にDVDをお送りいたします。



いずれも詳細は、事務局までお問い合わせください。

〈電話〉03-3399-8123 〈メール〉childfund@childfund.or.jp

* ハロハロとはタガログ語(フィリピン語)で“いろいろ”“まぜこぜ”という意味です。
このページは読者の皆様からのリクエストや投稿などをもとに作るページです。

ハロハロのページ

「他のスポンサーの方と交流したい!」という声や、「どのような方が支援者にいるか知りたい」といった声をお寄せいただくことがあります。そこで、2010年度の「ハロハロのページ」は、ご支援くださる皆様をご紹介します。第3弾となる今号は、「ラブカット」というユニークな方法でご支援くださる熊本県にある美容室「アロール」をご紹介します。代表の甲斐秀康さんにお話を聞きました。



代表の甲斐秀康さん(アロール店舗前)

Q 「ラブカット」とはどのような取り組みですか?

A 毎月第1日曜日の午後3時から6時までで行っているチャリティーイベントです。18歳までのお子さんたちが対象で、指定の時間帯にご来店いただくお子さんたちには無料でカットさせていただいています。ご利用された方にはご寄付(1,000円以上)をお願いしています。集まった募金の全額は、「チャイルド・ファンド・ジャパン」を通して、フィリピン、ネパール、スリランカのチャイルドへの支援に活用しています。

Q ホームページ☆には、「以前から開発途上国の貧困状況は知っていましたが、私達には全くの別世界の出来事でした…」と記されていますが、何故「ラブカット」をお始めになったのですか?

A 「アロール」が軌道にのり、自分たちにも子どもが生まれ、開発途上国の子どもたちを「身近に感じる」ようになったのです。そして、その子どもたちのために何か出来ないかと思い巡らしました。「ラブカット」を考えた理由は、スタッフも巻き込み、お客様にも参加いただいて、みんなで開発途上国の子どもたちのための地道な活動をしたかったからです。

Q 何人くらいのお子さんが「ラブカット」に参加くださるのですか?

A 毎回15~6人くらいのお子さんたちに参加いただいています。お母さんと一緒に来るお子さんもいますので、実際にご来店くださる方はもっといます。昨年11月から今年の9月まで11回の「ラブカット」を実施しましたが、その募金合計額は187,572円となりました。1回の「ラブカット」で平均17,000円の募金が集まっていることとなります。



「ラブカット」の日の様子

Q チャイルドたちに何を期待されていますか?

A これからは国境という垣根が低くなっていくという気がします。また、アジアが秘める可能性も大きいと思います。厳しい状況の中で生活するチャイルドたちには、しっかり勉強してもらい、今後グローバルな視野を持つ人になってくれたらと期待しています。



「ラブカット」に参加するスタッフの皆さん。お店のカウンターには募金箱が置いてあり、「ラブカット」に参加できない常連さんが寄付を入れてくださることもあるそうです

インフォメーション コーナー

報告

『つながりふるじえくとチャリティ古本市 2010夏!古本キャラバン』

昨年に引き続き、チャリティ古本市 2010実行委員会の主催で8月23日から26日、30日の5日間開催されました。本年も支援者の方々より、約3,000冊の書籍をお送りいただきました。ありがとうございます。古本の売上金は、参加企業各社からチャイルド・ファンド・ジャパンに寄付されました。各会場に来場くださった方々にお礼を申し上げます。



参加企業

キーコーヒー(株)、JX日鉱日石エネルギー(株)、(株)永谷園、日本たばこ産業(株)、(株)日立ハイテクノロジーズ(50音順)

お知らせ

チャリティコンサートのお知らせ

ヴァイオリンとハンドベルの演奏をお楽しみください。

日時	2011年3月13日(日曜日) 15:00~17:00
場所	青山学院 ガウチャー・メモリアル・ホール (東京都渋谷区渋谷4-4-25)
演奏者	第一部 林原澄音さん他 第二部 アンダンテ(ハンドベル)
主催	チャイルド・ファンド・ジャパン5周年記念チャリティコンサート実行委員会

チケットの発売開始は1月からを予定しています。

お知らせ

出前上映の注文を受けつけております!

6ページの記事で紹介しております記念映画「スマイルズ!」を、スタッフが上映機材持参して上映いたします。出前上映は、全国どこへでも出かけます。10月末までに、東京、埼玉、秋田、福島、仙台、山形など各地で出前上映をしました。ご関心のある方は、ぜひ事務局までお問い合わせください。また、DVDの貸出しも行なっております。上映会を通して、支援の輪が広がるよう、どうぞご協力ください。



感謝

書き損じハガキの活用について

今年、皆様よりお送りいただきました書き損じハガキや未使用切手は、ネパール、ラメチャップ郡での学校教育支援のために活用いたしました。本年1月より9月末までに、1,839,986円分のハガキや切手をお送りいただいております。ご協力をいただいた皆様にお礼申し上げます。どうぞ引き続きご協力ください。

お知らせ

領収証の送付について

2010年にご寄付いただいた分の領収証を2011年1月中旬にお届けします。(ご寄付ごとに領収証を送付している分を除きます。)この領収証は確定申告の際に所得税の寄付金控除に使用していただくことができます。尚、東京都にお住まいの支援者の皆様からのご寄付は、住民税に対しても寄付金控除の対象となります。

詳しくは

東京都主税局ホームページ

<http://www.tax.metro.tokyo.jp/>をご覧ください。

お知らせ

パンフレットを一新しました!

チャイルド・ファンド・ジャパンは、4月からネパールでスポンサーシップ・プログラムを開始しました。これに合わせて、パンフレットを新しくしました。ネパールの山奥に住む男の子、ティカラム君の生活も紹介しているパンフレット、ぜひご覧ください。ご希望の方は事務局まで。また店頭などに設置して下さる方も募集しています。



お知らせ

チャイルドの成長記録とクリスマスカードのお届け

「チャイルドの成長の記録」を、フィリピンのスポンサーの皆様には11月後半に、スリランカの皆様にはそれ以降順次お届けいたします。また、両国のスポンサーの皆様には、クリスマスカードを12月にお送りいたします。ネパールのスポンサーの皆様には、ネパールの新年に合わせて来年の4月にチャイルドからの新年のごあいさつをお届けいたします。どうぞ楽しみにお待ちください。

お知らせ

チャリティ・イベントを実施します

「クリスマス もうひとつの贈りもの」と題して、トークと映画上映で構成するイベントをおこないます。ぜひご来場ください。(入場無料&事前申込不要)

日時	2010年12月5日(日曜日) 13:00~16:00
場所	銀座教会 東京福音会センター・ギャラリー (東京都中央区銀座4丁目2番1号)
内容	映画監督の鈴木浩さんとスポンサーの武藤富子さんが心温まるトークをします。また、「スマイルズ!」(2010年制作)と「わが心の里子たち」(1985年制作)を上映します。

お詫び

東横インの割引券の有効期限について

8月にSMILES20号に同封して皆様にお送りいたしました、東横インご提供の宿泊割引券には有効期限の記載がありませんでした。お詫びを申し上げますとともに、有効期限を2011年12月31日(チェックイン時)といたします。どうぞご了承ください。

ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かす生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ

<チャイルド・ファンドだより SMILES> 2010年11月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信(青山学院名誉院長) 事務局長 小林毅
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

<デザイン>
モスデザイン研究所
<印刷>
有限会社東西印刷

